

報告事項 コ

「ばあばは、だいじょうぶ」映画上映会の開催について

「ばあばは、だいじょうぶ」映画上映会の開催について、別紙のとおり
報告します。

令和2年12月24日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志



「ばあばは、だいじょうぶ」映画上映会の開催について

令和2年12月24日

図 書 館

図書館では、闘病や介護の当事者の著書を収集している。当事者が発信する情報について普及啓発し、図書館資料の利活用を推進するため、認知症をテーマとした絵本『ばあばは、だいじょうぶ』の原作者によるミニトークと、その絵本を原作とした映画の上映を実施した。また、会場の入口外では関連図書展示を行った。

1 開催結果

【日時】 令和2年11月21日（土）午後2時から4時まで

【会場】 鳥取県立図書館 大研修室

【協力】 認知症の人と家族の会鳥取県支部、鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局長寿社会課

【参加人数】 66名（定員70名）

【内容】

(1) 『ばあばは、だいじょうぶ』原作者によるミニトーク（リモート）

講師：楠 章子 氏（児童文学作家）

認知症介護の当事者でもある楠氏に、ご自身の経験をわかりやすくお話していただいた。最初は現実から逃げることばかり考えていたが、そのことについて考える機会をくれたものとプラスに捉えられるようになり、経験をもとに絵本が完成した。現在は「認知症カフェ」等交流の場が広がるありがたい時代なので、介護は閉じたものにせず、周りにオープンにしていくことが大切というお話が印象的だった。

(2) 『ばあばは、だいじょうぶ』映画上映

2 参加者の感想

- ・ 認知症の問題は家族の大変さがクローズアップされがちだが、この作品では本人の不安が描かれ、他人事ではないと改めて考えさせられた。
- ・ 介護中だが、自分の母への気持ちもよく分かった。自分一人ではないと思え、救われた。
- ・ だんだん自分が忘れていくのはとても辛いことだが、家族が支えたらまた笑顔が戻ってくると思った。
- ・ 誰の周囲にもどこの家族にもありうること。皆で支えあえる世の中になればと思った。

3 成果

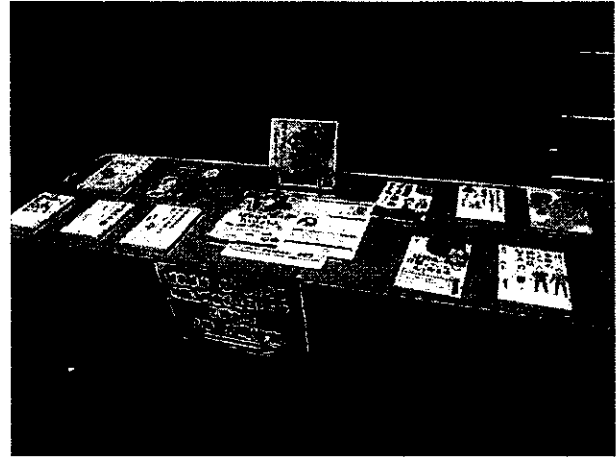
- ・ 子どもから大人まで幅広い年齢層の方においでいただいたほか、「認知症の人と家族の会鳥取県支部」からも多くの参加があった。アンケートの結果では、認知症介護を身近な問題として捉えている方が多く、今回のテーマについて関心が高いということが分かった。
- ・ 全体を通して大変好評であり、特にミニトークは熱心にメモを取る様子がみられるなど、多くの方が聞き入っていらっしやった。楠氏には当初よりリモートの予定でのご講演をお願いしていたが、画面を通して行われる楠氏のお話に対し、大きく相槌を打たれる方や、パソコンのカメラに向かって手を振られる方など、参加者のアクションをとおして双方向のコミュニケーションを感じられた。
- ・ 開催後は楠氏の著作に関する問い合わせと貸出があった。

4 今後の取り組み

本事業には多くの方にご参加いただき、認知症やその介護について理解を深める機会となった。今後も闘病記をはじめ県民が求める医療・健康情報について資料の充実を図り、また関係機関と密に連携しながら暮らしやすい地域づくりに貢献できるよう、さらに力を入れていきたい。



楠章子氏によるミニトーク



関連図書展示